KDS

免許取るなら 北方自動車学校

ベテラン指導員と卒業生にインタビュー

豊田指導員

教習の際には緊張をほぐすように心がけて、一人ひとりの個性に合わせた指導を行っています。当校では安全を第一に考えた運転をモットーに教習を行っています。皆様のご入校を心よりお待ちしております。

木倉さん

指導員の方は教習生の気持ちを考え、丁寧なアドバイスをくれるので分かりやすかったです。私は坂道発進が苦手でしたが、豊田指導員のおかげで克服できました。皆さんもぜひ北方自動車学校へ入校しましょう！

KDS

北方自動車学校

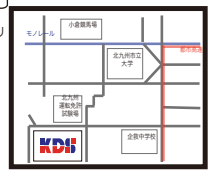
北九州市小倉南区葉山町２丁目７番１号

0120-154-485　093−961-1431

http:www.kitagata.jds.gr.jp/

キャンペーン情報など
お得な特典をご覧頂けます

ホームページ　ドラスクアプリ



北方自動車学校は 421Lab. の活動を応援しています

｜ラボタイムズプラス｜学生による学生の為の地域活動情報誌

Lab.Times+ vol.8

未来を担う子どもたちのために

CONTENTS

未来を担う子どもたちのために

Lab.Times+vol.8 のテーマは
「未来を担う子どもたちのために、 私たちは何ができるのか」です。

これからますます複雑になっていく社会に対して
私たち大学生は何ができるでしょうか？

今回は子どもたちのために活動している
地域共生教育センター（以下 421Lab. と略します）の
プロジェクトを取材してきました。

Lab.Times+vol.8 を通して、 読者の皆さんにも子どもたちの未来を考えて
もらえると嬉しいです。

TOPICS

未来を担う子どもたちのために

理想の社会とは？ p.4-5

未来を担う子どもたちにとっての理想的な社会とは
どんな社会でしょうか。
輝かしい未来へ向けて、 いま私たちができることを
一緒に考えてみたいと思います。

キーワードは「共育」です。

教育に携わる学生たち p.6-9

教育に携わる北九州市立大学の学生やプロジェクトをご紹介します。
また現場での活動を通して何を学んだのか、学生たちの声をお届けします。

1. 若園保育所「英語で遊ぼう」
2. 桜丘小学校学習支援プロジェクト
3. 『食』から学ぼうプロジェクト
4. 平和の駅運動プロジェクト

p.10-13

＼密着／ 対談取材

紹介したプロジェクトで
活動している学生に
密着取材してきました。

若園保育所「英語で遊ぼう」（地域創生学群 2 年 前原栞）
×
桜丘小学校学習支援プロジェクト（法学部 3 年 吉元就魅）

『食』から学ぼうプロジェクト（法学部 2 年 山下拓也）
×
平和の駅運動プロジェクト（法学部 2 年 神谷留菜）

まとめ p.14

「未来を担う子どもたちのために」
私たちができることについて考えました。

編集後記 p.15

Lab.Times+vol.8 に携わった
気持ちを綴りました。

未来を担う子どもたちのために

理想の社会とは？

皆さんにとって理想的な社会とはどのような社会でしょうか。
「食べ物に困らない社会」や「差別がなく平等な社会」などいろいろあると思います。
Lab.Times+vol.8 ではこうした未来をつくるために私たちができることを
考えていきたいと思います。

持続可能な未来のために

近年、 輝かしい未来の実現に向けた取り組みとして SDGs が注目されています。
SDGs とは、 すべての人が平和と豊かさを享受することを目指す普遍的な
行動を呼びかけるものです。 目標は 17 の大きなゴールと、
それらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されています。
421Lab. でも SDGs の達成に貢献するような活動が多くなされています。

「教育」と「共育」

Lab.Times+vol.8 で取り上げる学生プロジェクトは、 保育園児から高校生まで
未来を担う子どもたちを対象としています。
教育といえば子どもが大人から学ぶ姿を想像するかもしれません。
しかし、 421Lab. の学生プロジェクトは違います。 地域の子どもたちとの学習
交流や学習支援を通して、 大学生自身も子どもたちから学びを得ています。
そこでは「共育」がなされていると言えます。

子どもと学生が共に学び合う「共育」は、 持続可能な社会の実現のためにとても
大切だと考えます。 では「共育」の現場では一体どのようなことがなされているの
でしょうか？次のページから実際に学生たちの活躍を紹介します。

教育に携わる学生たち

421Lab. には、 子どもたちに学習支援を行っているプロジェクトがあります。
そこでは実際に教室で子どもたちの学習をサポートしたり、 一緒に学んだりしています。
今回は取材班が4つの現場に赴き、 現場での様子を取材してきました。

英語 × 園児 × 大学生

若園保育所「英語で遊ぼう」

1 2020 年度から小学校で英語の授業が導入されます。 若園保育所では、 子どもたちに少しでも早い段階から英語に慣れ親しんでもらうために月 1 回の英語教室を行っており、 その活動に 421Lab. も協力しています。

幼い時から英語に触れることで異文化理解へつながります！

「幼児期からの英語教育」について

小学校で英語教育が必須になります。 幼い頃から英語に触れることで早い段階で理解できるとされています。 グローバル社会で活躍できる人材を育成しようとする取り組みのひとつです。

昨年度参加人数：12 名
活動頻度：月 1 回活動＋準備日など

▼現場で活動している学生の声

英語教室で習った単語を使って大学生に話しかけてくれる子や「これって英語で何て言うの？」と聞いてくれる子もいます。英語に関心を持ってくれているのだなと活動の成果を実感することができて嬉しいです。

＼現場取材しました／

若園保育所で活動している大学生は、 子どもたちに対してどうやったら英語を楽しみながら学べるのか一番に考えながら活動していました。 このように幼い頃から英語に触れることで、 これからの社会を担う子どもたちによい影響をもたらしていくんだなと感じました。

地域創生学群　2年
西村　豪大

小学校 × 学習支援 × 大学生

桜丘小学校学習支援プロジェクト

2 小倉北区の桜丘小学校で児童の学習支援を行っています。 通常行われている授業に参加し、AT（アシスタント・ティーチャー）として子どもの学習をサポートする役割を担っています。
また特別支援学級で生活支援を行ったり、 校外学習ではまちあるきの安全確保の役割を担ったりしています。

学習をスムーズに行うために子どもたちの支援をしています！

AT(アシスタント・ティーチャー) とは

学級担当のサポートとして授業に入り、 先生の指導が円滑に進むようにノートの書き方の提示や問題解決のための声かけなど、 学力向上のための手助けを行っています。

昨年度参加人数：8 人
活動頻度：月 5 時間程度など

▼先生方の声

書道が得意な学生さんもいて、 授業の補助に来てくれた際には質の高いお手本を児童に見せることが出来ました。 特技を活かして臨機応変に対応するというのは、 学生さんだからこそできることなのかなと思います。

学生がいてくれると安心感がありますね。 授業中、 私の目が行き届かない部分に対応してくれるので助かっています。 児童の「分からない」に対して、 一度に何人もの児童に答えることは難しいので学生の力を借りればより早く、 多くの児童に対応することができます。

＼現場取材しました／

実際に現場に行くと驚きが待っていました。 私は最初、「学生が授業の補助をする」と聞いて、 先生が困っていれば助ける程度という捉え方しかできていませんでした。 しかし実際は、 先生と学生が連携し、 ひとつのチームとして授業を運営していました。 学生は先生にも児童にも頼られていて凄いなと感じました。

地域創生学群　2年
出光　真侑

食 × 健康 × 若者

『食』から学ぼうプロジェクト

子どもたちに食べること、作ることの大切さを伝えています！

3 「『食』から学ぼうプロジェクト」は、若者の食に対する意識の向上を目的に活動を行っています。また大学生自らも健康的な食生活を送るための知識の獲得を目指しています。子ども食堂で調理を担当したり、地域の小学校で食育活動を行っています。

昨年度参加人数：11 人

活動頻度：ミーティング毎週など

食べ物ランド・健康ランド @広徳小学校

「『食』から学ぼうプロジェクト」は広徳小学校との連携企画で、小学生に食べ物や健康に関する学習を毎年行っています。今年の食べ物ランドでは、魚の特徴や野菜の生育について学ぶゲームなどを企画しました。子どもたちの反応も良く、楽しそうに学んでいました。

▼現場で活動している学生の声

子どもたちが普段何気なく食べている食材がどのように育ち、どのような栄養があるのかをゲーム形式で学ぶことができるので小学生に楽しんでもらえたと思いました。今後も小学校との交流を活発に行いたいと思います。

＼現場取材しました／

地域創生学群　1 年
大楠　千晶

学生は子どもたちと触れ合いながら食べ物や健康について何を知っているのか、また何を知らないのかをしっかり聞き取っていました。
学生は子どもたち一人ひとりの理解度に合わせて食育活動を行っており、子どもたちも楽しんで学んでいるようでした。

平和 × 未来 × 学生

平和の駅運動プロジェクト

平和について学ぶことで、命の大切さを伝えています！

4 「平和の駅運動プロジェクト」は平和活動を行っている団体です。毎夏、北九州市と長崎市で平和イベントを開催するため、小倉から長崎までの 230 km を自転車でリレーしています。また、北九州市内の小学校、中学校に行き、子どもたちとのコミュニケーションを大切にした平和学習を行っています。

昨年度参加人数：7 人

活動頻度：週 2 日、月 16 時間程度活動など

平和の駅 10 周年記念イベント「平和とは、こういうこと。～北九大生と考える私たちの平和の形～」

北九州市で学び暮らす若者として、「北九州市に原爆が落とされるはずだった」という歴史的事実を学び、戦争や平和とどう向き合っていくかを大学生と高校生が一緒にディスカッションしながら考える企画を行いました。

▼プロジェクトメンバーの声

ここでは、学校の先生から教わるというかたちではなく、人と人がフラットな関係で答えを導くというのが新鮮でした。ディスカッションという形式は一人ひとりが戦争や平和について深く考えることができるため、記憶に残るなと思いました。

＼現場取材しました／

地域創生学群　2年
出光　真侑

平和学習なので比較的しんみりとした雰囲気のイベントなのかなと思っていたのですが、実際は全く違っていました。戦争というテーマに対する真摯さが担保されつつ、意見を交わし合う楽しさが伝わりました。

＼密着／
対談取材

桜丘小学校学習支援プロジェクト 若園保育所「英語で遊ぼう」

活動現場でお会いした学生に密着。保育園での英語教育や小学校の授業サポートなど実際の教育現場にいる学生たちにはどのような学びがあったのでしょうか。具体的なエピソードを交えて語っていただきました。

吉元（よしもと）　就魅（なるみ）

桜丘小学校学習支援プロジェクト
法学部　3年

前原（まえはら）　栞（しおり）

若園保育所
「英語で遊ぼう」
地域創生学群　2年

Q. 活動に入ったきっかけは何でしたか？

私は教員免許を取得したいと考えているのですが、教育実習がうまくできる自信がなかったからです。特にたった3週間で先生や児童と仲良くなるのはとても難しいように思っていました。そこで見つけたのが「桜丘小学校学習支援プロジェクト」の活動でした。先生方や児童たちに直接関われる貴重な体験ができると思い、このプロジェクトに入りました。

私の場合は「英語で遊ぼう」の当時のリーダーからお誘いがあったからです。私はもともと英語の合宿に積極的に参加するほど英語好きでした。「教育 × 英語」という活動は自分にとって楽しみながら学べる貴重な機会だと思い、喜んで参加することにしました。

Q. 活動の魅力は何ですか？

園児の「気づき」に驚かされることですね。例えば、Head Shoulders Knees And Toes の歌わかりますか？活動の一環で園児と歌ってたんですけど、そうしたら Shoulders とか Knees とか全部 s が付いてることに子どもたちが気づいたんですよ。そのとき複数形の話をするつもりはなくて、中学校で習うような内容なので。でも、そのような「気づき」が嬉しくて…。

そうなんですよね。子どもたちの視点って面白いものがありますよね。

私にとって活動の魅力は、子どもの変化を間近で感じられることです。活動当初、すこし注意の必要な子どもが1人いました。教室から脱走したり、教室の後ろに寝ころがったりとか。でもある日その子が、「放課後教室*に行く」って言ったんです。それから先生と相談しながら少しずつ一緒に放課後教室の時間を過ごしました。すると初めて会った時とは見違えるほど学習に熱心に取り組むようになりました。最近では用事で放課後教室に参加できない日でも、「ごめん病院行くけん。来週はよろしく」って声をかけてくれます。この子ども自身、放課後教室に参加することがしっかりと頭にあるんだなと思い、絆のようなものが感じられた瞬間でした。

楽しみに待ってくれてるんですね！

教室で会ったら、「授業終わったらすぐ放課後教室行くから！」とか言ってくれて。

*放課後教室
第2学期の毎週水曜放課後に3・4年生を対象に国語や算数の授業を大学生が行っています。

Q. 活動を始めて自身の成長など変化を感じることはありましたか？

話す対象によって伝え方を変えることを意識するようになりました。私の活動だとそれが園児という年代に向けた伝え方になります。自分がどんなにわかっている事だとしても、園児からすれば難しいことかもしれません。少ししつこいぐらい説明します。その方が理解してもらえるんです。

私は接し方ですね。目線を合わせることを大事にしています。特に、その子どもにとって大事な話をしようとするときは膝をついたり、腰を屈めたりして直接目を見る。そうすることで、児童と心の中の目線も合うかなと思っています。

Q. これからの目標を聞かせてください。

外国の方と触れ合える機会を作りたいですね。人に会うっていうのが一番インパクトがあると思うので。園児の好奇心がかきたてられるような活動ができたらいいなと思っています。

子どもたちと一歩踏み込んだ関係を作っていくことです。大学1、2年生もより積極的に活動に参加してもらいたいですね。桜丘小学校学習支援プロジェクトの学生メンバーが児童にとって身近な先生になり、気軽に話しかけてもらえる存在になれたらと思います。

＼密着／

対談取材

『食』から学ぼうプロジェクト 平和の駅運動プロジェクト

食や平和に関連する多くのイベントを実施することで学生たちはどのような学びを得ているのでしょうか。
印象に残ったイベントも踏まえて語っていただきました。

山下（やました）　拓也（たくや）

『食』から学ぼう
プロジェクト
法学部　2 年

神谷（かみや）　留菜（るな）

平和の駅運動
プロジェクト
法学部　2 年

Q. 活動を始めたきっかけは何でしたか？

私が入学した頃、「『食』から学ぼうプロジェクト」は、「食と農業学び場プロジェクト」という名称でした。 農業も学びつつ料理スキルを上げたいと思ったのがきっかけで参加しました。 今では農業について学ぶ活動はほとんどないですが、 料理の知識や経験などはたくさん積むことが出来ています。

私は、 せっかく北九州に来たのだから、ここでしかできないことをしたいと思い参加しました。 小倉に根付く伝統芸能を用いて平和を伝える「平和の駅運動」に魅力を感じたことと、 沖縄県出身なので戦争について考える機会も多く、 人々に平和を伝えていきたいと思っていました。

Q. 活動を行うなかで成長したと思うことはありますか？

私もプロジェクトの学生も「食」に対する意識が高くなったことですね。 今までほとんど気にしていなかった食べ物や栄養について考えるようになりました。

私はプロジェクト活動を支えてくださる方々のために頑張りたいと思うようになったことです。 今までは自分のために頑張ることが多かったのですが、 プロジェクトを通してサポーターの皆様へ恩返ししたいという感謝の気持ちがより一層強くなりました。

確かに私たちの活動でも、 まちづくり協議会の方や小学校の先生方に協力して頂くこと、 また子どもたちから刺激をもらったり、学んだりすることが沢山あります。 そういった面も含め、私たちの活動に関わる人たちには、感謝の気持ちを常に持つようにしています。

その他にも平和に対する考え方が変わりました。 平和を伝える活動だからといって、平和だけを見るのではなく、 戦争にも目を向けないと平和は理解できないと思うようになりました。 単に戦争を毛嫌いするのではなく、しっかりと向き合い、 戦争があったという事実を知った上で平和を訴えていくこと、 そうでないと何の根拠もない、 発信する力もないということに気づきました。

Q. 今までやってきて良かったと思うイベントはありますか？

すべての活動がそうですが、
その中でも特に印象に残っているのは、
高校生対象の平和を考えるイベントです。
この企画は 1 年生が発案したものでした。
今まで高校生を対象にしたイベントがなかったので不安でしたが無事成功しました。 実際に、平和について考えて欲しい世代というのが大学生や高校生だったので、 この企画は私たちの活動の大きな一歩になりました。

私も同じで、 すべての活動をしてきて良かったと思っています。 今年度は少し違うかたちで活動しました。 プロジェクトの人数が増えたので、 子ども食堂では調理の他に子ども達のお世話も活動の一環として行いました。 子どもたちと触れ合う時間を増やすことで会話がしやすくなり、 孤食という課題にも視野を広げることができるようになりました。
子どもたちと一緒に食べる喜び、 楽しさという面からアプローチでき、活動の幅がより広がったと感じました。

Q. 今後の個人と団体の目標は何ですか？

私の個人的な目標は余裕を持ったリーダーになることです。 リーダーひとりで仕事を全て抱えるのではなく、 メンバー全員で協力し合えるように分担し、 余裕を持ち合わせたリーダーになりたいです。
団体としての目標は、 学年の壁をなくし、「『食』から学ぼうプロジェクト」のようにメンバー内で和気あいあいと意見が言い合える関係を築くことですね。

確かに、 私たちのプロジェクトは全員が発言していますね。 みんな明るく元気いっぱいです。

いいですね。 私たちのプロジェクトは、今までは縦の繋がりが強く、 上下関係がありましたが、 これからは 1 年生も積極的に発言ができるよう親密になりたいと思います。

私の個人的な目標は、 リーダーとして先輩たちが築いてきた「『食』から学ぼうプロジェクト」を維持していくことです。
団体の目標は、 今までの流れを引き継ぎつつ、 自分たちらしいことに取り組んでいくことです。 活動を維持していくことも大事ですが、より楽しめるようにイベント内容などを改善していきたいです。 また、 新しいことにもチャレンジしていきたいと思っています。

未来を担う子どもたちのために

今回の Lab.Times+ は「未来を担う子どもたちのために、 私たちは何ができるか」
というテーマを取り上げました。 持続可能な社会やより良い未来の実現のためには
未来を担う子どもたちだけでなく、 私たち学生や大人も共に学び合う
「共育」に取り組まなければなりません。

グローバル化や情報化が進む現在、 先の見通せない様々な事態や状況がたくさんあります。
だからこそ互いに協力し合い、 柔軟に行動することがますます重要になっています。
そして、 他者と学び合う「共育」が求められているのではないでしょうか。
Lab.Times+vol.8 を手にとってくれたみなさんが「共育」活動について考え、
実際に活動してみようかなと思っていただければ嬉しく思います。

編集後記

Lab.Times+ vol.8 を最後まで読んでくださりありがとうございます。
本号では「未来を担う子どもたちのために、 私たちは何ができるか」を
テーマに制作を進めてきました。

現場取材や対談を通して学生たちの取り組みに触れることができ、
その一つひとつが私にとって貴重な学びになりました。

読者の皆さんにとっても、 この Lab.Times+ vol.8 がこれからの未来を
考えるひとつのきっかけになれば嬉しいです。

最後に、 Lab.Times+ vol.8 の制作にご協力いただいたすべての皆様に
感謝申し上げます。
今後も Lab.Times+ をよろしくお願い致します。

Lab.Times+ vol.8 編集長 西村豪大

421 Lab.
地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

発行：北九州市立大学地域共生教育センター
発行日：2020 年 3 月
編集：北九州市立大学地域共生教育センター
学生運営スタッフ
西村豪大（編集長）
出光真侑・木倉泰海・
大楠千晶・樹村祐希・宮川実来
〒802-8577　北九州市小倉南区北方 4-2-1
［Tel］093-964-4092
［Mail］info421@kitakyu-u.ac.jp

▼Twitter

▼Facebook